



夏に気を付けたい子どもの病気

かな やま たく よ

金山 拓 登 医師

国保京丹波町病院 小児科(金曜日)担当

7月は気温と湿度が高くなり、子どもの間でさまざまな感染症が流行しやすくなる季節です。特に「ヘルパンギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱(プール熱)」は、毎年この時期に患者数が増えます。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と、喉の奥にできる水ぶくれが特徴です。小さなお子さんほど、喉の痛みから食欲が落ちてしまうこともあります。解熱剤を使って楽にしてあげると良いでしょう。アイスやゼリーなど飲み込みやすいものや水分摂取を優先してあげてください。水分すら摂れず、ぐったりしている、おしっこが少ない、といった場合は受診をおすすめします。



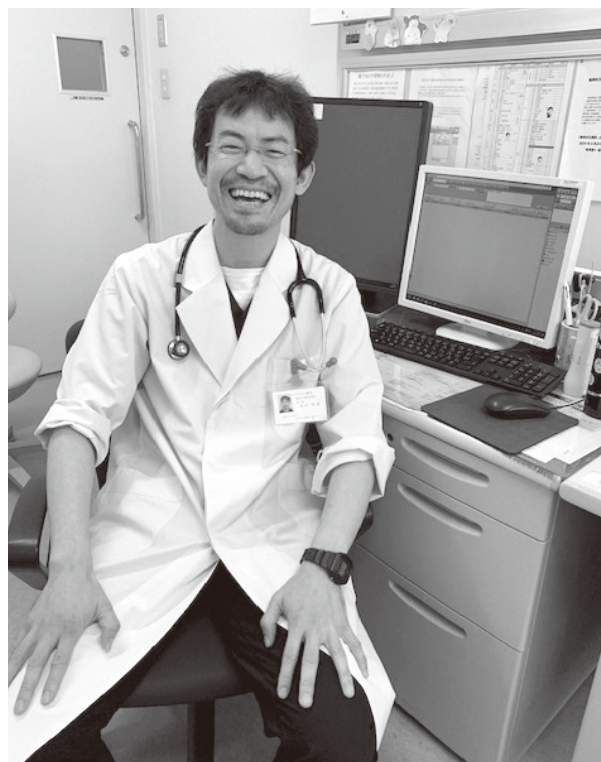
手足口病

その名のとおり手足や口に小さな発疹や水ぶくれができる病気です。5歳以下の幼児までに多く、発熱は軽いことが多いものの、口や喉の痛みがあるのはヘルパンギーナと同様です。発疹は1週間ほどで自然に治りますが、お尻に発疹が出たり、爪がはがれたりすることがあり、驚かれる保護者の方もいます。痛みはほとんどなく、自然に元に戻るなので心配はいりません。



咽頭結膜熱(プール熱)

アデノウイルスが原因で、発熱・喉の痛み・結膜炎(目の充血・目やに)が特徴です。一般的なウイルス感染と比べて発熱期間は長く、1週間程度続くこともあります。ヘルパンギーナや手足口病は診察所見に



よる診断ですが、アデノウイルスは検査が可能ですので、発熱が長く続いたり、喉や結膜炎の症状がみられて疑わしい場合は受診を検討しましょう。

今回紹介した感染症は、全てウイルス感染ですので残念ながら抗生物質は無効ですし、特効薬がありません。日々の手洗いや、感染者とタオルを共有しないといった対策が重要です。



夏を元気に過ごすために、家庭での小さな工夫と早めの気づきが大切です。子どもたちの健康を守るため、季節の感染症に気を付けながら過ごしましょう。

